

# 未来を見据え、地域に寄り添い、共に成長する学び舎

「自主」「敬愛」「活力」あふれる生徒が世界へはばたく蔵王ならではの学び舎をともに創ります

## 01. チーム蔵王の結束力を発揮する設計体制

チームの特徴と全体マネジメントの方針

### 「チーム蔵王」のチームワークと総合力を最大限に発揮

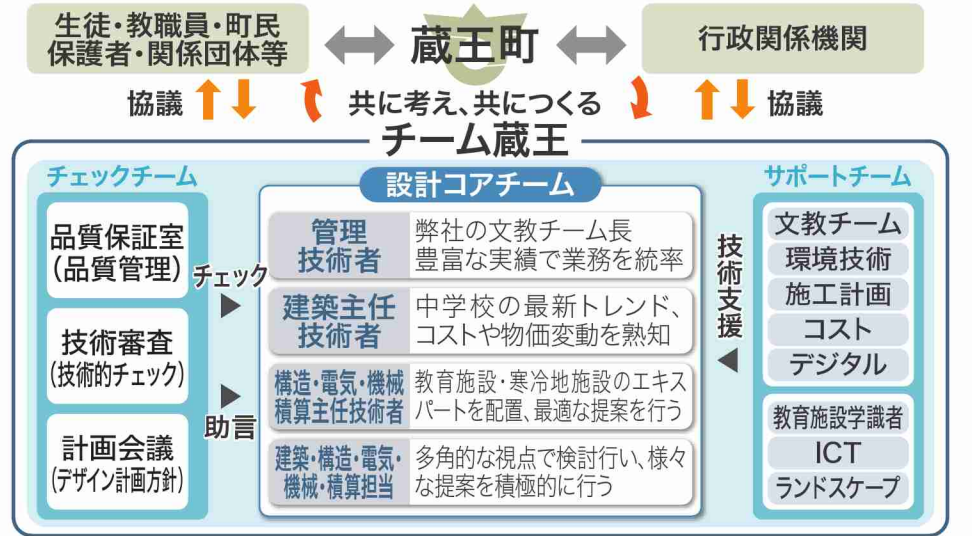
管理技術者と各担当主任技術者で構成する設計コアチームがサポートチームや外部専門家と連携を図り、町民や行政と協働する「チーム蔵王」を結成します。熱い思いとチームワークを最大限発揮し、総合力で業務を推進します。

### 教育施設設計、寒冷地の経験豊富な設計コアチーム

管理技術者は全国に多数の実績をもつ文教チーム長を配置し、長年の経験と豊富な実績をもとにチームを統括します。  
各主任担当技術者・担当者は、宮城県南部地域や、教育施設、寒冷地、積雪地域での設計実績が豊富なメンバーで構成します。

### 専門技術を有するサポート・チェックチーム

全国の教育施設で活躍している文教チーム、環境負荷低減を研究する環境ソリューション部、豊富な経験を持つ施工計画担当、全国の実績を元にした最新のコスト動向を把握するコスト部、品質管理を行う品質保証室、各部門長による設計検証など、全社を挙げてサポートします。  
必要に応じて、学校施設研究第一人者の学識経験者の意見を取り入れ、これからの中学校のあり方を設計に反映します。



取組体制イメージ

## 02. 確実な合意形成を図るコミュニケーションと設計プロセスの可視化

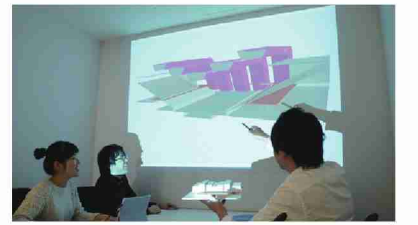
業務の取組方針、進め方

### みんなで考えるこれからの学校づくり

検討テーマによって、ワークショップや、アンケート、ヒアリング形式などの最適な手法により、生徒・教職員等の意見を集め、設計への要望、意見を把握し、確実な合意形成を図ります。  
コロナ禍での対面打合せが困難な状況においても、オンラインを活用したりリモート会議・ワークショップも視野に入れ、確実に関係者や町民の意見を反映します。

### 関係者の認識を共有化する円滑な合意形成手法

BIMや各種シミュレーション、比較検討や費用対効果の検証プロセス等の分かりやすい資料で、意思決定の迅速化を図ります。  
『課題管理シート』で課題を整理し、関係者の認識の共有化します。



BIMシミュレーションイメージ

## 03. 高品質な設計を実現する手戻りのないスケジュール管理

スケジュール

### フェーズ工程による確実なスケジュール管理

設計工程を、5つのフェーズに分け、フェーズ毎に合意形成の内容を明確化すると共に、意匠、構造、電気、機械の相互チェックを設計の各フェーズで行うことで、効率的な設計を行います。  
初期の大概算のほか、基本設計で2回、実施設計で1回の概算を行い、構造や設備等コストに大きく影響する項目を早期に洗い出すことで、手戻りなく迅速に設計を行います。



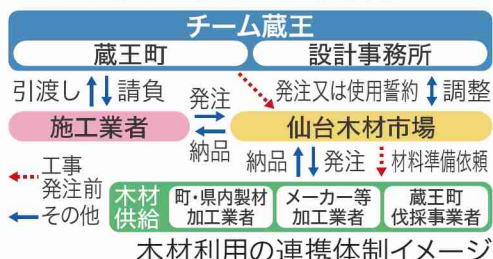
フェーズ管理で的確に設計業務を遂行するスケジュール

## 04. 徹底したコスト管理と蔵王産木材で蔵王ならではの学び舎を実現

その他重要と考える事項

### 蔵王町産木材を活用した温かみのある学び舎

使用材の90%以上を蔵王産木材とし、木の香りに包まれた温かみのある学校とします。メンテナンスに配慮し、内装材の利用を主とし、雨や雪の影響の受けづらい外壁面を杉板張りとし、木材の供給可能量を伐採期間・乾燥期間を考慮し、先行発注も踏まえて発注支援を行います。  
蔵王町産木材の利用にあたり、地元の森林組合、町・県内の製材所と連携の取れる体制を構築し、木材調達の工程を考慮した設計工程とします。



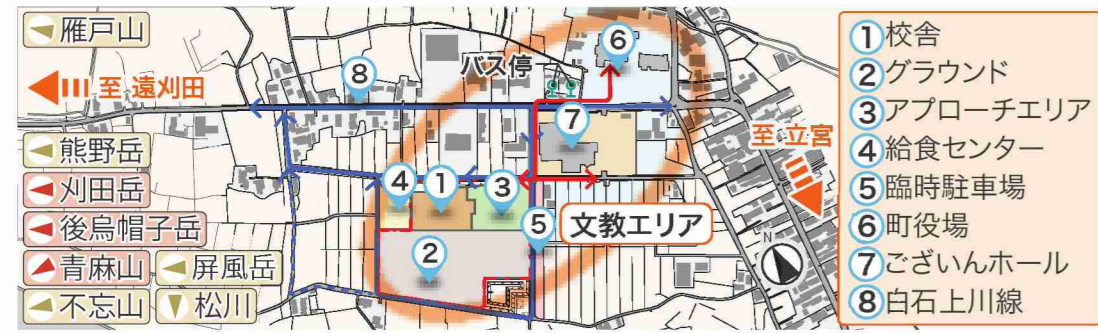
### 早期のコスト把握と徹底したコスト管理

コスト削減効果の高い設計初期段階に重点管理ポイントを設定したフロントローディングによる設計手法により、設計初期段階でのVE調整を行い、確実なコスト管理を行います。  
BIMによる数量把握により、確実に早期のコスト把握を行います。  
使用建材の選定においては、弊社実績や資材物価変動に基づきコストバランスを検証します。



【周辺施設との関係性を考慮した土地利用計画の提案】

### 1- ①. 周辺施設と連携し、蔵王町の文教エリアを形成



広域イメージ

#### ■ 周辺施設と連携する文教エリアを形成

蔵王中をこれからの地域の生涯学習拠点として位置付け、ございんホールや役場等の周辺施設を含めた文教エリアを形成します。周辺施設との連絡・連携を図ることで、生徒や町民の利便性を向上させます。

ございんホールや役場、バス停、臨時駐車場からの動線に配慮し、歩行者通路や駐輪場、駐車場で構成するアプローチエリアを北東に設けます。

#### ■ 蔵王の山並みと調和する合理的でコストを抑えた2階建て校舎

普通教室や特別教室の学習空間のまとまりや、屋内外の繋がりを確保しやすい2階建て校舎を提案します。

最適な採光や換気を得られ、明るく健康的な学習環境を実現できます。

上下階の移動が少なく、バリアフリーや避難計画においても有効です。

2層構成とすることで、基礎への負担(基礎底面の接地圧)が3層構成の7割程度となり、躯体量及び掘削土量の削減に繋がります。

構造や防火設備の簡素化により、工期の短縮も可能です。

造成工事で宅盤は前面道路から高くなりますが、勾配屋根の低層校舎により、周辺への圧迫感を低減し、蔵王連峰の景観と調和します。

項目	3階建て	2階建て	
採光	北面1階が暗くなる	全方位で採光を確保しやすい	○
防火	縦穴防火区画あり防火設備が煩雑	縦穴防火区画がなく防火設備が簡略	○
避難	3階では避難器具が必要となる	階段だけで地上に避難しやすい	○
維持管理	3階部分の管理・修繕が困難	バルコニーにより管理・修繕が容易	○
工期	21か月	19か月	○
コスト	高い: 工期が長く基礎への負担が大きい	安い: 短工期・躯体軽量化	○

2階・3階の比較イメージ

【土地条件を考慮し、機能的な土地利用、配置計画の提案】

### 1- ②. 敷地全体を最大限に活用するクロスプロムナード

#### ■ 活動をつなぎ、交流を生むクロスプロムナード

クロスプロムナードは、アプローチエリア、学び舎エリア、南側のグラウンドエリア、テニスコートを4つに分割する歩行空間とし、敷地を明快にゾーニングします。

クロスプロムナードには、交流や憩いの場を点在させることで、生徒の活動やふれあいを促します。

アプローチエリア、学び舎エリア、給食センターを直列配置し、生徒の登下校や来校者、給食センターからの食料動線の錯綜を無くします。



敷地ゾーニングイメージ

#### ■ 明るい教室環境と、登下校・地域開放に配慮した学び舎配置

学び舎は、南側の校舎棟と北側の体育館・武道場、双方建屋をつなぐ中庭を一体で計画し、日照と通風を確保します。校舎、体育館共に、アプローチエリアに隣接し、登下校や地域利用にも利便性の高い配置です。

#### ■ 雨・風・雪から来校者を守るアプローチ空間

昇降口は北東配置とし、車寄せからアクセスしやすい計画とするともに、冬季の季節風から生徒や来校者を守ります。

昇降口は大庇を設け、雨天や降雪時などの登下校の滞留を緩和し、通年でスムーズなアクセスが可能です。



アプローチエリアイメージ(登下校風景)

## 未来を見据え、地域に寄り添い、共に成長する学び舎

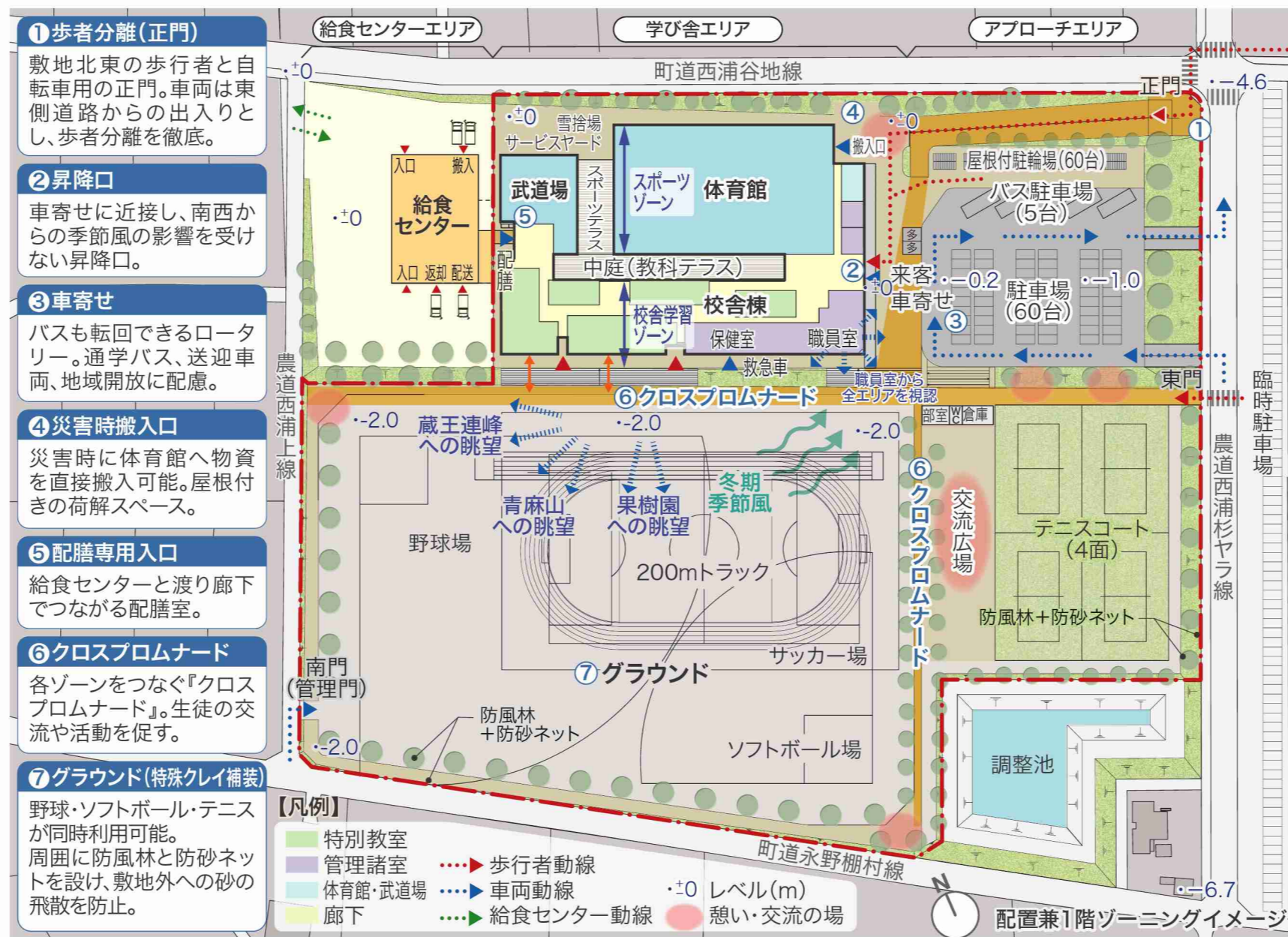
“文教エリアの核となる学び舎”を実現する6つの工夫

- 01 | **クロスプロムナード**  
外部活動をつなぎ交流を生む
- 02 | **2階建て校舎**  
低層で街並みと調和
- 03 | **多様なテラス**  
内外の活動をつなぐ
- 04 | **コミュニティリング**  
学びと活動の回遊性
- 05 | **メディアストリート**  
生徒と地域の学びの場
- 06 | **環境・コスト**  
社会変化を見据える



バルコニーやテラスで内外をつなぐグラウンド側イメージ

統合中学校では3校の学びや活動がひとつになります。各校の学びや地域性、文化、歴史の特色を受け継ぎ、新たなコミュニティを育む場として、地域に開き、学校と地域を結ぶ施設づくりを行います。



【給食センター(将来計画)の配置を想定した土地利用計画の提案】

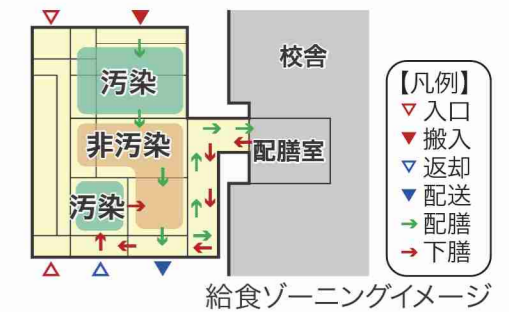
### 1- ③. 給食センターからのスムーズな配膳動線

#### ■ 給食センターとの機能的な連携

校舎の西側に配膳室を設け、給食センターと屋内渡り廊下で接続します。

給食センターの車両動線は西側道路とし、統合中学校の車両動線と分離します。

調理状況をライブカメラで町内の小学校に配信し、児童の食育に活用します。



給食ゾーンingイメージ

【内外空間の連続性を考慮した土地利用計画・配置計画の提案】

### 1- ④. 内と外をつなぎ、活動を広げる場

#### ■ 接地性の高い2階建て校舎で内外をつなぐ

教科テラスや学年テラスなど各所に屋内外の学びを繋ぐ場をつくります。豊かな自然環境の中で蔵王でしか実現できない学習環境を提案します。

2階建て校舎により、グラウンドなどの屋外にでやすく、教室においても外部空間との高い連続性を確保します。

蔵王連峰や青麻山、果樹園の景観をパノラマビューで一望できます。

#### ■ 学びと活動を広げる教科テラス

校舎と体育館の間に中庭を設け、採光通風に優れた学習環境とします。中庭は特別教室と連携した教科テラスとしても活用し、多様な学びをサポートすると共に、生徒の憩いと交流の場とします。



内外の活動をつなぐ教科テラスイメージ

#### ■ スポーツ観戦や屋外イベントに対応

グラウンドに面した各教室の階段兼用のスタンドや、バルコニー、テラスは、体育の授業や部活動、さらには運動会などのイベント時の観客席になります。

体育館のギャラリーとは別に、東側には観覧テラスを設けます。

スポーツテラスでは、ウォーミングアップや柔道場との一体利用のほか、体育館ステージの可動壁を開ければ、ステージを舞台としたイベント利用も可能です。

#### ■ 災害時も内外連携

避難所となる体育館はアプローチエリアに面し、搬入口からの物資搬入可能な計画とします。

搬入口には大庇を設け、物資の仕分スペースとして活用します。

中庭は、炊出しのスペースとして調理室と連携利用できます。



クロスプロムナードで活動をつなぐ鳥瞰イメージ

